

## 令和5年度 日本大学危機管理学部 公開講座 第1回

テーマ：「ウクライナを知る—ウクライナの文字と言葉入門—」

開催日：令和5年10月24日（火）

講師：日本大学危機管理学部専任講師 田上 雄大

### 講座の概要

この講座では、ウクライナ語で用いられるキリルアルファベットと簡単なウクライナ語等について扱った。2022年からのロシアによるウクライナへの全面侵攻以降、ウクライナの知名度は日本でかつてないほどに上昇した。ただニュースではウクライナが取り上げられる機会が増えたものの、ウクライナ語やウクライナの文化といったものについては、一般層にまだ十分に知られているものではない。そのため時間が限られていたため駆け足ではあったものの、ウクライナを知るための橋頭堡となるように、その基礎ともなるウクライナ語におけるキリルアルファベットをベースとして扱った。

まず最初に導入として「cake」<sup>1</sup>や「Ice」<sup>2</sup>といった一見ラテンアルファベットのような文字のみが使われた単語のクイズを行った。そのうえで「А」（ア）から「Я」（ヤ）までのアルファベット及び「'」（アポストロフ）について扱っていった<sup>3</sup>。ここでは各文字の名称や発音に加えて、文字の成り立ちについての解説も行っている。また成り立ちの解説においては、多くの人になじみ深いラテンアルファベットとの比較を通して、奇妙な文字扱いされることもあるキリルアルファベットを身近なものに感じられるように心がけた。たとえば「Р」（キリル：エル<sup>4</sup>）と「R」（ラテン）や「С」（キリル：エス）と「S」（ラテン）といったアルファベットには、ギリシャ文字を通してその起源の解説を行っている。

ウクライナ語におけるキリルアルファベットの解説においては、ウクライナ語よりもはるかに知名度のあるロシア語におけるキリルアルファベットを必要に応じて比較対象として用いた。幸い聴講者のなかにロシア語に対する知見を有する方がいたので、より意味のあるものになったように思われる。また言語としては関連がないけれども、キリルアルファベットの「Ю」（ユー）に一見似ている文字であるハングルの「О」（オ）を解説のアクセントとして盛り込んだ。

次いでウクライナ語の地名について扱った。これは近年、ウクライナの地名の日本語表記がロシア語準拠のものからウクライナ語準拠のものに変更されていっていることに鑑み、発音やスペルといった点からウクライナ語とロシア語の表記の相違を概観することを目的としている<sup>5</sup>。似ている箇所の多寡が単語ごとに異なり、また言語によるスペルの特徴もあるなかで、ウクライナ語の格変化を通してみることにより、言語間の関連性について触れていった<sup>6</sup>。

続いてウクライナにかかわる有名な人物の名前のウクライナ語表記について扱った。ここで扱った人物名は、「Зеленський Володимир Олександрович」<sup>7</sup>、「Мілла Йовович」<sup>8</sup>、「Хрущов Микита Сергійович」<sup>9</sup>、「Беата Гордон (Беата Сирота)」<sup>10</sup>である。なお、「Зеленський」と「Хрущов」については、ロシア語での表記も参考としてレジюмеに記載した。あわせて、レジюмеの後ろに資料として添付した五十音・ウクライナキリル対応表を用いて、聴講者の氏名をウクライナ語で書く時間を設けた。

最後に、ウクライナ語会話で使用できる基礎的な言い回しについて扱った。主な内容としては、出会い及び別れの挨拶、不明なものの尋ね方と返事、お礼の言葉、ご機嫌伺いとその返事、名前の尋ね方とその返事ならびに誕生日の言い回しである。最低でも「こんにちは」、「ありがとう」及び「これは何ですか」のフレーズを覚えておけば、どこへ行っても何とかかなるということを東京外国語大学名誉教授の中澤英彦先生がおっしゃっていたので、言い回しのなかでもこの3つは外せないものといえるだろう。

ウクライナ語について扱った内容そのものとしてはおおよそ上記のとおりであるが、締めとして、今後個人学習をするにあたっての代表的な参考書や公開講座の紹介などを行った。またウクライナ語への興味関心をさらに高める一助となるように、レジюмеには今回扱った部分のほかにくつつかの資料を末尾につけている。そのなかには、残念ながら時間が足りずに扱うことができなかったタラス・シェフチェンコの「Заповіт」(遺言)という詩も添付している。ウクライナに行かれる際にはぜひ覚えていっていただければと思う。

<sup>1</sup> 酒。

<sup>2</sup> 伊勢。

<sup>3</sup> А а, Б б, В в, Г г, І і, Д д, Е е, Є є, Ж ж, З з, И и, І і, Ї ї, Й й, К к, Л л, М м, Н н, О о, П п, Р р, С с, Т т, У у, Ф ф, Х х, Ц ц, Ч ч, Ш ш, Щ щ, Ъ ъ, Ю ю, Я я, ’.

<sup>4</sup> 巻き舌の「エル」であり、ラテンアルファベットの「L」に相当するものは「Л」(エル)である。

<sup>5</sup> たとえばかつて「キエフ」と表記されていたものが、現在では「キーウ」と公式に表記されるようになっている。当然、前者がロシア語準拠、後者がウクライナ語準拠である。

<sup>6</sup> たとえばリヴィウはウクライナ語では「Львів」であり、ロシア語では「Львов」となっている(いずれも主格)。この「Львів」が格変化をして所格になると「Львові」となる。

<sup>7</sup> ゼレンシキー大統領(公開講座時及び執筆時)。

<sup>8</sup> ミラ・ジョヴォヴィッチ。

<sup>9</sup> ニキータ・フルシチョフ。

<sup>10</sup> ベアテ・シロタ。